

サマーセミナー2017報告

藤原 孝幸¹⁾, 入部 百合絵²⁾, 滝本 裕則³⁾

1) 北海道情報大学 2) 愛知県立大学 3) 岡山県立大学

2017年度のサマーセミナーは、9月5日～6日の2日間、北海道札幌市 定山溪温泉の【定山溪ホテル】にて開催された。若葉研究会の発表は18件、チュートリアルセッションでは1件の特別講演をお願いした。参加者数は企業8名、大学教員14名、学生20名の合計42名であった

1. はじめに

第24回目となるサマーセミナーは、北海道札幌市定山溪温泉の【定山溪ホテル】において9月5日、6日の2日間にわたり合宿形式で開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催は、2004年以来、今回で14回目となる。

サマーセミナーの主目的は、学生や企業の若手研究者など若葉研究者に研究発表の場を提供すること、若葉研究者と研究指導者（企業研究者や大学教員）との交流の場を与えること、両学会の研究室学生諸君、研究者同士の交流を図ることである。

2. 開催準備と実施形態

2016年11月から企画を開始し、両学会で検討を重ねた。共催となってからは両組織が交代で主担当となっており、今回は画像応用技術専門委員会が中心となって開催した。以下に示す企画委員会を設置し、藤原企画委員長のもと、入部幹事（メディア工学研究会）、滝本幹事（画像応用技術専門委員会）が中心となって準備を行った。構成は以下の通りである（敬称略）。

画像応用技術専門委員会側

- ・藤原 孝幸（北海道情報大学、企画委員長）
- ・滝本 裕則（岡山県立大学、幹事）
- ・川西 亮輔（三菱電機）
- ・棚澤 信（旭硝子）
- ・野村 安國（東京ウエルズ）

メディア工学研究会側

- ・入部 百合絵（愛知県立大学、幹事）
- ・青木 義満（慶應義塾大学）
- ・伊藤 康一（東北大学）
- ・多田 昌裕（近畿大学）
- ・東海 彰吾（福井大学）
- ・村上 和人（愛知県立大学、アドバイザー）

サマーセミナーでは、若葉研究会での優秀な発表者に表彰が贈られる。優秀発表賞については、以下の11名で構成される優秀発表賞 審査委員会を

設置して審査を行った。例年と同様、審査委員会のメンバ全員がすべての発表を聴講することで公正かつ平等な審査を行った。

【優秀発表賞審査委員会（敬称略）】

代表委員会

- ・藤原 孝幸（北海道情報大学、企画委員長）
- ・梅田 和昇（中央大学、画像応用技術専門委員会委員長）
- ・村上 和人（愛知県立大学、メディア学会メディア工学研究会顧問）
- ・入部 百合絵（愛知県立大学、幹事（書記））

審査委員（50音順）

- ・青木 義満（慶應義塾大学）
- ・安藤 雄太（東京ウエルズ）
- ・伊藤 康一（東北大学）
- ・奥水 大和（中京大学）
- ・野村 安國（東京ウエルズ）
- ・橋本 学（中京大学）
- ・福間 慎治（福井大学）

3. サマーセミナー報告

3.1 参加者数と開催状況

参加者数は企業8名、大学教員14名、学生20名の合計42名（男性40名、女性2名）であった。御協力頂いた関係各位に感謝申し上げたい。会場は大宴会場を使用したため、ゆとりのある座席の配置をすることができた。

3.2 若葉研究会

企業からの発表エントリはなかったが、若葉研究会にて18件の学生発表があった。リラックスした雰囲気でありながら活発な議論となり、どの発表でも質問が多く積極的な情報交換が行われた。座長は、野村 安國氏（株式会社東京ウエルズ）、滝本 裕則氏（岡山県立大学）、福間 慎治氏（福井大学）、高氏 秀則夫氏（北海学園大学）をお願いした。セッションを非常に円滑に進行して頂いた座長各位に感謝したい。

3.3 チュートリアルセッション

今年度は「世界に羽ばたくビジョン技術」というテーマのもと、1名の講師に特別講演をお願いした。2日目の若葉研究発表後に、青木 公也氏（中京大学）に「人に学び、人と共に成長するマシンビジョン研究 一産学共同研究事例の紹介」と題して、大学の研究室で20年を超えて携わっているマシンビジョンの研究において「どういう状況で、どう考えて」取り組んできたかを講演いただいた。講師の視点で、外観検査・目視検査の自動化における研究で「変わってきたこと」、「変わらないこと」を整理し、主に聴講の学生が産学連携においてどのように考えて研究推進すべきかの提案をしていただいた。「どう考えていたか」については時折本音らしき思い出話も飛び出し、その都度会場に和やかな雰囲気を作り出していた。様々な研究事例における「考え方」を含めた紹介は、若葉諸君だけでなく大学教員・企業研究者にとっても大変貴重な講演であった。お忙しい中ご講演頂いた青木氏にはこの場を借りて心より感謝申し上げます。なお、座長は、東海 彰吾氏（福井大学）をお願いした。

3.4 最優秀発表賞

どの発表もレベルが高く、審査員を大いに悩ませた結果、以下の2名の受賞者に賞状とカップが贈呈された（図1）。優秀発表賞のカップは持ち回りで、次のサマーセミナーまで受賞者の研究室に飾られる。研究の励みになることを期待する。

【優秀発表賞受賞者（発表順）】

前田 圭介氏（北海道大学）

淀川 滉也氏（東北大学）

なお次点は大野 光津弘氏（中京大学）、斉藤 僚汰氏（北海道大学）がオーナブルメンションとして紹介された。

3.5 懇親会

入浴後、大広間【しらかば】にて夕食をとり、休憩を取った後に同じ大広間にて懇親会を行った。親密な雰囲気の中で、世代を超えたタテの交流、同世代のヨコの交流が行われた。参加者の手土産により潤沢な飲み物・各地名産の食べ物がそろい、恒例となっている手土産の紹介等もあり、大いに盛り上がった。その後、中締めのために引き続き大広間にて有志参加の2次会が行われ、例年通り深夜まで教員・企業人・学生の枠を超えた歓談が行われた。

4. おわりに

今年度のサマーセミナーも、和やかな雰囲気のうちは無事終了した。図2は、ホテルのエントランスにて撮影した集合写真である。

サマーセミナー2017の準備にあたり、会場設営・運営補助にあたった北海道情報大学、中央大学の学生アルバイト各位、料金設定や会場準備その他でご配慮いただいた【定山溪ホテル】の皆様には心より御礼申し上げます。また、お世話になった皆様に全員に、紙面を借りて感謝の意を表したい。

次のサマーセミナーは、メディア工学研究会が中心となって開催する。入部百合絵企画委員長（愛知県立大学）を中心に企画を行い、2018年夏に開催する予定である。



図1 優秀発表賞受賞者（右：前田氏，中：淀川氏）



図2 サマーセミナー2017参加者集合写真（2017年9月6日 定山溪ホテルにて）